【切手デザイン】

六十余州名所図会

周防 岩國錦帯橋

錦帯橋が完成したのは、江戸時代の一六七三年のことです。錦帯橋が架けられた目的は、錦川によって分断された城下町を結ぶためでした。岩国の城下町は一六〇〇年の関ヶ原の戦いの後に吉川家によってつくられたもので、中央を流れる錦川を挟み、領主の居館や諸役所、上級武士の屋敷は横山に、中下級武士の屋敷や町屋は錦見に配置し、一つの城下町を形成していました。

三代岩国領主の吉川広嘉は、家臣に橋の研究をさせ、柱のないアーチ橋の技術を成熟させていったと伝えられています。こうして一六七三年、錦帯橋は完成しました。この橋は完成の翌年に流失したもののすぐに再建され、その後も工夫と架替を繰り返し、二七六年間不落を誇りました。

一九五〇年、キジア台風によって錦帯橋は流失しますが、一九五三年に再建され、二〇〇一年から二〇〇四年には「平成の架替」と呼ばれる架替工事がおこなわれました。

また、江戸時代から名橋として知られた錦帯橋は、参勤交代途上の大名をはじめ、多くの人々が訪れており、葛飾北斎や歌川広重の浮世絵にも描かれています。そして、清流錦川や背後に連なる城山の緑との景観の調和により、一九二二年三月八日、錦帯橋は国の名勝指定を受けました（一九四三年地域一部追加）。

六十余州名所図会　周防岩國錦帯橋　木版多色刷　【一八五三年　歌川広重筆】

○ 切手と写真部分を郵便物に貼って、ご利用いただけます。
写真部分だけでは、切手としてご利用いただけません。
○ 郵便料金納付のためにこの切手をご利用の場合、写真部分に消印がかかることがあります。

凸版印刷株式会社製造